

えられている。今回我々は RA の活動性の高い9症例(男3例, 女6例)に対して MPL によるパルス療法を施行した。その効果を炎症指標(血沈, CRP 等), 免疫学的指標(IgG, IgA, IgM 等)を用いて判定した。その効果は約4週間継続するもその後は前状態に戻り, パルス療法だけで RA の維持は困難と思われ, 他の薬剤の併用が必要と考えられた。まだパルス療法の問題点は多くあり, 今後十分な検討が必要である。

#### 5) 慢性関節リウマチに対するメソトレキセート療法の経験

堀田 利雄・蒲原 宏 (県立がんセンター)  
平田 泰治・守田 哲郎 (新潟病院整形外科)  
小林 宏人

難治性の関節リウマチに対する薬物療法は難かしく非ステロイド抗炎症剤は免疫調節剤としての金塩等を併用

して投与しても難治する症例の多いことは経験するところである。

本症が免疫学的に亢進状態にあるとして免疫抑制剤を併用投与することも以前より試みられており, その一つである葉酸代謝拮抗剤であるメソトレキセートの効果も注目を浴びており吾々も1982年より他剤抵抗, 特に金治療無効例で腎機能低下のない症例に本剤の低用量治療を行なっているのでその経験について報告した。症例は32例, 男7, 女25例, 本剤投与開始時年齢は32~70才, 罹患年数は1~12年, 服用期間は1~6年3カ月, 平均3年, 全例 classical である。効果は有効13例, やゝ有効5例, 合せて56.2%, 不変3例, 中止は副作用7例を含めて11例34.3%であった。これら症例の経過と文献的考察を加えて報告した。本法は副作用に留意して注意深く試みるならば有効な治療法の一つと考える。